

倶多楽火山

○大正地獄の熱水化学組成の経年変化

大正地獄から湧出する熱水はCl, Na, Ca, CO<sub>2</sub>, H<sub>2</sub>Sなどの化学成分を溶存し、登別温泉の中では最も高濃度の中性食塩泉である。噴騰活動が始まる以前の化学成分の変化、特にCl濃度は2000年頃から増加傾向を示し、2007年5月に始まる噴騰活動の直前には、急激に増加した。この直後にCl濃度は、一旦、急減したものの、すぐに回復し、その後は徐々に増加し、2008年5月頃からは12000mg前後で現在まで推移している。このCl成分に代表される溶存成分の増加は、深部熱水活動の活発化を反映していると考えられる。

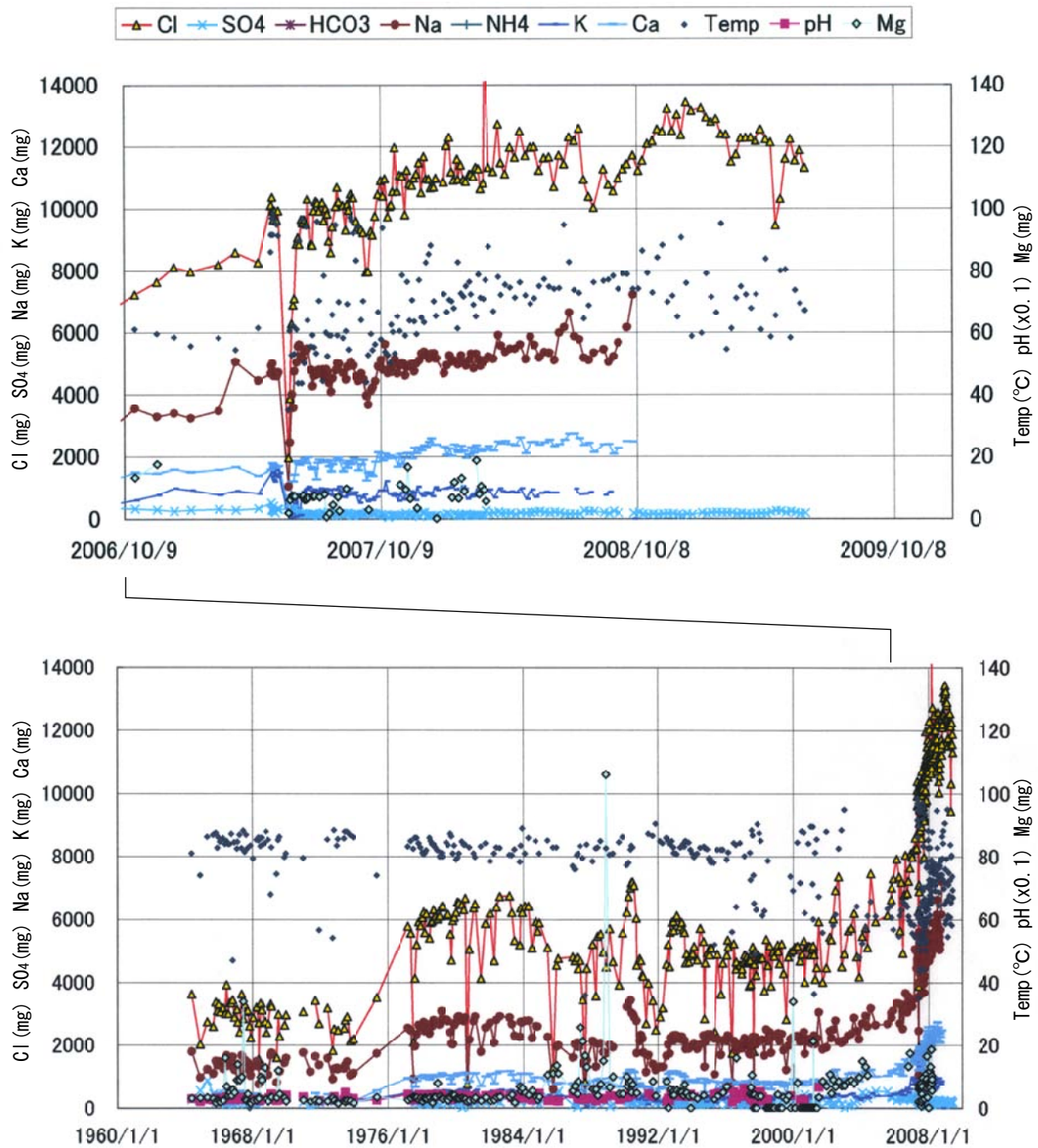


図1. 大正地獄から湧出する熱水の化学組成の時間変化(安孫子)

(安孫子・大島)

倶多楽火山